



同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字原間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/



博士…ついにタイムマシンが完成したぞー!!
記念すべき最初の旅行は過去と未来どっち
にするかのう?

助手…博士、お願いがあるのですが…。9月23
日(土)に高校時代のホームカミングデー
があるので、もう一度高校時代を振り返っ
てみたいのですが…。

博士…よからう。君は高校を卒業し
て何年になるのかね?

助手…21年になります。

博士…21年か。それじゃあ、高校の
様子も現在とだいぶ変わってし
まっているじゃろうな。

助手…中学校ができた、第2体育
館ができた、テニスコートが
移動してしまったり…。

博士…よし。まずは何年にタイムス
リップするのじゃ?

助手…やはり最初は入学式を見てみ
たいですね。

博士…よし。わかった。1982年4
月5日、獨協埼玉高校第3回入
学式へタイムスリップじゃ!!

助手…おー。博士、大成功です。
私たち3期生の入学式が始まっ
ています。やっぱりみんな緊張
しているな。

博士…獨協埼玉高校は男子校じゃな
かったのかね?

助手…そうなんです。開校して2年
間は男子校だったのですが、私
たち3期生から男女共学になっ
たのですよ。

博士…今と違って女子のスカートは
長いのか。髪形もみんな同じに
見えるぞ!

助手…そうなんです。博士。当時
の女子はみんな「せいこちゃん
カット」といって松田聖子の髪
形を真似していたのですよ。雨
の日やプールの授業の後にはドラ
イヤーの奪い合いで休み時間は
大騒ぎでした(笑)。

博士…そういえば、女子の制服も今と違うので
はないか?

助手…博士、よく気がきましたね。あの制服
は今年3月の卒業生が最後で、全学年新し
い制服に変わってしまいました。「埼玉の学
習院」なんて言われた時期もあって、なん

3期生 ホームカミングデー



となくさみしい気もしますね。あつ。担
任の紹介だ。
博士…担任の先生方は現在も獨協埼玉高校にお
られるのかね?
助手…はい。沢田先生以外は皆、元気に頑張っ
ているそうです。あつ。高島先生のお腹が
でていない(笑)。松本先生の「ベイシッ
ク・イングリッ
ク」の授業を
また受けてみた
いな。ここか
ら高校生活がス
タートしたんだ
な。

博士…次はいつにタ
イムスリップす
るのじゃ?

助手…高校1年生の
時の日光校外学
習へお願いしま
す。

博士…よし、わかっ
た。1982年
10月25日、日光
校外学習へタイ
ムスリップじ
ゃ!!

おー!! まだ
10月だというの
に雪が降ってお
るぞ。タイムス
リップ失敗か?
助手…いえいえ、博
士、大丈夫です。
この日は日光に
季節外れの雪が
降った日なの
です。

博士…そうであつた
か。それにして
も10月で雪とは
驚きじゃろう。
みんなバスから降りられずに車内で弁当を
食べているのう。「先生、俺たち何をしにこ
こへ来たの?」なんてばやし声も聞こえるぞ。
助手…そうなのですよ。結局、この後とも見
学できずに、このまま帰ることになってし
まうのです。

博士…そうか。林間学校にかわる、せっかくの

校外学習が残念じゃつたのう。さて、気を
とり直して、次はいつにタイムスリップす
るのじゃ?

助手…私たちが中心となって行なった2年生の
時の学校祭をのぞいてみたいですね。
博士…了解。1983年10月1日、2日(ゴ
ー!!)

おつ!! 「蛙鳴祭」これは何と読むのじゃ?
助手…「あめいさい」です。この年から獨協埼
玉高校の学校祭を「蛙鳴祭」と呼ぶことにな
ったのです。現在も「蛙鳴祭」の名が使
われていてとても嬉しいですね。

博士…周りを田んぼに囲まれている獨協埼玉高
校にピッタリの名前じゃな。よし、次はい
つ、どこに行くのじゃ?

助手…次はやっぱり、高校生活一番の思い出、
修学旅行をのぞいてみたいですね。
博士…よし!! 1983年12月7日、12日、長
崎・平戸方面へレッツゴー!!

おー!! 柳川の舟下りじゃな。風情があつ
てよいのう。長崎平和公園ではみんな神妙
な面持ちじゃ。フェリーのの上から見る九十
九島コバルトラインの眺めは最高じゃのう。
大宰府天満宮では、菅原道真にあやかって
成績が上がるように、みんなお祈りをして
いるのじゃな。ところで、君の修学旅行の
一番の思い出は何じゃね?

助手…旅行中、大好きな女の子のことを、ずつ
と見ていたこと(笑)。あとは、帰りの
寝台車ですね。一睡もせずに友達と語り合
っていました。

博士…青春じゃのー!! さて、そろそろ、燃料も
少なくなってきたぞ。

助手…では、最後に卒業式の式場にお願いま
す。

博士…よし。1985年3月12日、卒業式の式
場へ!!

みんな、矢嶋仁吉校長の言葉をしっかりと聞
いているし、最後の校歌を誇らしげに歌っ
ているな。初めての女子の卒業ということ
で涙・涙の良い卒業式じゃ。

この日以来、21年振りのホームカミングデー
というわけじゃな。大いに楽しんでくる
がよい。

助手…ありがとうございます!!

というわけで、3期生の皆さん、9月23日
(土)には大いに語り合います!!

(3期生 武田信二)

同窓会長 玉山栄一



人(人生)とは水のようなものかもしれない。個としてはなくない。水、燃えさかる炎を消す水、反対に電力となり灯りをともす水もある。しかし、滞る水は多くても弱く、躍動する水は一滴でも強い。あなたは、大河の一滴か、それとも葉先に一滴か、どちらにしても私たちは躍動する水、意志を持って流れる水でなければならぬ。

人(人生)は、自分の持っている力をいかに発揮させ躍動させるか。同じ所でくすぶっているのは滞り、濁り、退化する。時に間違っても人は歩みを止めるわけにはいかない。常に挑戦し、新しい流れを作るための勢い呼び込まねばならない。それは何も選ばれた特別な人だけが持つ力ではなく、我々、獨協埼玉生にも十分に備わっているのだと確信している。人は世の中で必ずそれぞれ役割があるわけだから。

自分の可能性を「しがらみ」で囲ってしまふことなく、過去の失敗は友と語り合い、笑い流しながら歩いていきたいものである。年齢と共に私たちは挑戦することよりも先に結果を見越して、それはできないと結論づけてしまう。また、失敗した時のことが脳裏をかすめる時に、思わず歩みを止めてしまう。それでも私たちは歩き続けなくてはいけない。人間の値打ちは、失敗の有無ではなく、失敗から何を学び、そこからどのように起き上がるか、ということである。

今後、学校にとって厳しい風が吹いてくるかもしれない。しかし、獨協埼玉同窓会は、常に躍動する水でありたい。皆さんがいる限り歩み続けます。

年を取れば取る程 懐かしくなる

校長 石井征次



先日、中学時代の友人の葬儀があった。その友人は、私のかみさんと同小学校・中学校を通じてのクラスメイトだったので、所用で動けない私に代わって、彼女が葬儀に列席してくれた。

葬儀は洒落者だった故人にふさわしく、献花と友人たちの思い出話だけで進行する当世風のものだったらしい。その席に、その昔、かみさんと私の月下氷人役を務めたと自称する同級生が来ていて、心に沁みる話をしてくれたという。

確かに学生時代、彼の所属するクラブの資金集めのためのダンスパーティーにかみさんと一緒に出かけたことがある。それで「あの二人は俺のおかげで一緒にあったんだ」と今も彼はクラス会などで話しているという。まんざら嘘でもないから仕方がない。

彼は今、日本を代表する大企業のトップにまで上り詰めている。「久しぶりに会ったけど、昔と同じね。いろんな話をして楽しかったわ。あなたにもよろしくって」と運転手付のベンツで送ってもらって、かみさんはすっかり上機嫌だった。

まだ、未完成な人格として出会った同級生はいつまで経っても同級生だ。若い頃はそうでもないのだが、ある時期から急に懐かしくなる。それも、実感として思うのだが、年を取れば取る程懐かしくなる。まるで人生の親戚、そんな気分になるから面白い。

松本達雄 (英語科)



同窓生の皆さん、お元気でしょうか。私が獨協埼玉に奉職して、はや二十三年が過ぎようとしています。還暦を前に細身にむち打って頑張っています。

今年度は高校三年生を担任しています。この学年は、中学一期生が卒業する学

速水麻里子 (社会科)



昇降口からグラウンドに向かう途中に藤棚があることを覚えていましたか。いつもなら五月に咲く花が、今年は七月に入ってから花をつけています。狂い咲きも異常気象のせいでしょうか。天気だけではなく、世の中は若者や子どもたちが関わる悲惨な事件が日々多く起こっています。学校の生徒たちも皆さんの頃と違うと

ころが多くあります。でも、毎年桜が咲き、藤の花が咲き、田植えから稲刈りと変わらない風物があるように、学校には今も変わらず存在する「良心」というものがあります。学校がもつ「良心」とは生徒がよりよく成長して欲しいという心からの願いです。それはいつまでも変わりません。皆さんも変わらない風景や「良心」に出会いに、ぜひ学校を訪れてみませんか。私たちも皆さんから「希望」を頂き、さらに頑張っていけるはずですよ。

井藤美枝子 (司書)



今から〇十年前この獨協埼玉の近くのまだ一部造成中だった武里団地で新婚生活のスタート

を切りました。赤ん坊や幼子たちを引き連れて芹摘みやれんげ摘みに来ていた地に、やがて学校ができそこへ勤めることになろうとはその頃には想像もできないことでした。そして来年3月

年です。何か今までとは違った緊張感があります。

同窓生の皆さん。同窓会は、母校が存続するかぎり、永久に会員が増え続けていき、母校とは切り離すことのできない密接な関係を持ちます。卒業生の皆さまの社会での活躍、努力、貢献が、そのまま母校の社会的評価となります。

お会いする日を楽しみにしています。

には退職です。

若い頃は仕事に挫折感を覚え、妊娠を機に喜んで退職してしまいました。今やる気満々の同僚司書や勉強熱心な司書仲間を見るにつけ、若い頃あんなにすぐあきらめずに食らいついでいれば違った道も開けていたのではないかと思います。どうぞ同窓生のみなさん、何かあってもあきらめないうで頑張ってください。

第九回同窓会総会・懇親会開催

6月17日(土)午後より、第9回同窓会総会および懇親会が本校小ホールで実施されました。総会では17年度の事業報告・会計報告および18年度の事業計画・予算案が提示され、無事承認されました。本年度の新しい報告としては、第2体育館の完成に伴い、同窓会室が用意された点があげられます。ここにきてようやく雑多な資料や荷物、また学校祭で使用される様々な展示品や文具類の保存・整理に目途が立ちました。

懇親会は慣れ親しんだ学校が会場というところもあって、教員との談笑に花が咲きました。今回の目玉企画は「卒業アルバムスライドショー」!!1期生のアルバムから代ごとに特徴的な写真を各代の方の解説つきで流していきましました。新しい代の卒業生にとっては、女子のスカートが長い(長すぎる?)ことやジャージが水色・赤・紺の3色に分かれていたことなどが新鮮な驚きのようでした。また若かりし頃の教員の姿、例えば体育祭でマリリン・モンローに扮しているY先生や、なぜか色付きめがねが教員の間で流行っていた時期があったこと(「S先生やI先生など」、さらには卒業生教員の生徒の頃の写真などが笑いを誘



りし頃の教員の姿、例えば体育祭でマリリン・モンローに扮しているY先生や、なぜか色付きめがねが教員の間で流行っていた時期があったこと(「S先生やI先生など」、さらには卒業生教員の生徒の頃の写真などが笑いを誘

っていました。もし、これらに興味をもたれた方は、学校祭で展示いたしますので是非ご確認ください。

決算・予算報告

平成17年度決算書 H17年4月1日~H18年3月31日

収入の部		支出の部	
★前年度繰越金	20,051,451	★次年度繰越金	16,513,383
★終身会費 (含既卒生)	3,440,000	★幹事会費	30,000
★利息	62	★体育祭ジュース	171,465
		★総会費用	556,212
		★創立25周年寄付金	5,000,000
		★会報作成・郵送	1,206,653
		★卒業アルバム保管用	13,800
合計	23,491,513	合計	23,491,513

平成18年度予算(案)

収入の部		支出の部	
★24期生 終身会費	3,130,000	★会報費	1,800,000
★H17年度より 繰越金	16,513,383	★通信費	150,000
★預金利息	62	★事務費	300,000
		★総会費	400,000
		★庶務費	100,000
		★文化祭活動費	50,000
		★幹事会費	100,000
		★企画費	500,000
		★書架費	300,000
		★予備費	15,943,445
合計	19,643,445	合計	19,643,445

湖上の日・II 第二回ホームカミングデー・レクチャー

いやー、結構集まることができました!6月の中旬、このイベントの取りまとめを引き受けて以来当日の集合時間時間が来るまで、いったいどのくらいの人参加してくれるんだらうかと心配しつつ、時間の許す限りあらゆる手段を尽くして活動をした結果、参加者40人ほどで、盛会&成功を果たすことができました!良かった!

まずは、加倉井先生をはじめ協力してくださった先生方、適切な助言と熱いエールを常に発信していただいた杉崎さんをはじめ1期生の先輩方、また、縁の下で支えていただき頼もしかった同窓会事務局、そして寸分の暇を惜しんで協力してくれた同期たちに心から御礼申し上げます。

2005年9月25日、この日集まったほとんど全員が22年ぶりの再会です。お互い太ってたり、髪の毛が少なくなったり、顔が増えたりと、見かけはやや(?)変わったけど、一言交わせば22年の歳月なんか一瞬にして消え去り、あの頃(宇多田ヒカルが生まれた頃)のままの友と自分に戻ることができました。これは、日々仕事と家庭の間の狭いところに自分を押しこんで(多分)いる同期の仲間たちにとっ

て、相当に非日常的な瞬間であったことだろう。参加してくれた仲間の大半は翌日も放心状態だったのでないだろうか。そして、その放心から現実へ戻ってゆく過程において、今日自分が歩いている場所から人生を大きく振り返り、明日の人生の活力へと昇華させてゆく何かを見つけたにちがいない。(と、大げさに書く私は1年も経過したというのに燃え尽き症候群のまんなまでが……)

おかげさまでホームカミングデーは終りました。同期の活動は活発になり、あの日以降プチ同期会があちこちで開かれるようになったようです。今後は、今回残念ながらホームカミングデーには何らかの理由で参加できなかった仲間たちにも声を掛け続けることで同期サークルの輪を広げ、テーマを設定した会合を企画するなど工夫をして、末永く成長させてゆこうと考えています。

「40歳になったら高校へ行こう」と、声高らかに湖上伝説を残した1期生。1年後、2期生はそれを受け継ぎました。伝説から歴史へと形を変えて。

(2期生 小泉英二)



獨協埼玉だより

高校編

本校では、創立以来、「高等学校の学習は基礎的な学習の仕上げと同時に専門的学習への端緒である」という考えから、教養主義的なカリキュラムでの教育を実践してきました。獨協大学への推薦を希望する生徒が多かった時代であればこそ、このカリキュラムといえます。

そして、中学校からの生徒が高校に進学した2004年度より、「進学重視型カリキュラム」を実施し、獨協大

中学編

中学生の一日は7時台のバスに乗ることから始まります。登校時間ギリギリの8時台のバスは高校生がたくさん乗ってくるので、中学生は7時30分から50分までに乗ることになっていきます。バス停に必ず2人いる当番教員の指示に従って、女子は前の乗り口から、男子は後ろの乗り口から乗り込みます。指定時間に間に合わなかった生徒は、当然のことながらせんげん台の住宅街をとぼとぼと歩く羽目になってしまいます。

ほとんどの中学生が学校に着くのは8時前。登校時間の8時20分までの間、グラウンドに行ったりキャッチボールやバスケットを楽しんだり、汗だくになって朝のHRを迎える男子が少なからずいます。朝の10分間は読書、または英語や数学の小テストが実施されます。時には1週間のうち4日間も小テストが実施されることもあり、生徒は天手古舞いです。たいていの小テストでは、不合格者に対し「追試」または「課題」が出されますので、平常のテストと平行してこれらのことをこなすのはかなり大変です。自主性を重んじる獨協埼

懐かしい母校「獨協埼玉」の現在の様子をお伝えします

学だけではなく、様々な大学・学部への進学に対応しています。英語・数学においては習熟度別授業を行っています。また、2年生の段階で6時間分の授業（社会・理科）を選択し、自己の適性を見極めた上で、3年生の段階では国公立・私立、文系・理系と6コースの設定をしています。今年の3年生がこのカリキュラムでの初めてのクラス分けとなりました。かつてのように、同じクラスに文系も理系も、推薦希望

玉においても、最低限の学力を身につけるためには、このような反復学習は欠かせません。

公立学校が土日休みとなる中、月から土まで授業が行われています。獨協埼玉の生徒の特徴なのか、それとも今の子どもたちの特徴なのかははっきりしませんが、人なつこく、授業中に教



員に気さくに話しかけるようなことが多々おこり、教員が一方的に話すかたの典型的な「授業」とは違った雰囲気教室には漂っています。時には羽目を外しすぎて、教員に廊下で怒鳴られる生徒の姿が見受けられるのも、中学校ならではの風景かもしれません。学食は「お弁当」であることは卒

者も他大受験者も...というクラスの雰囲気とは異なった、受験という競争的な現実に対応したクラス編成となりました。また、今までよりも必修選択の科目も多くなり、2時間目で下校...といった姿も見られなくなりました。

生徒たちのニーズに合わせて変化をしながらも、もちろん、伸びやかで楽しい学校であろうとする獨協埼玉の精神も、先生方も今も変わりはない獨協埼玉です。

業生ならご存知のことと思います。中学校ができた今でもそれは変わっていません。ただ、高校生に混じって混雑した学食で買いたい物をするのは大変なもので、弁当もパンも、時には飲み物も注文式をとっています。入学したての1では、1学期の間は担任が教室で一緒に弁当を食べています。

放課後の過ごし方は、先に述べた補習と部活動です。9割近くの生徒が部活動に加入しており、高校の部活動との「場所取り」に苦しみながらも週4日程度活動しています。遠方から登校している生徒が少なからずいるので、終礼後から最終下校時間17時半までの2時間弱という限られた時間内ではありますが、どの部活も活発に活動しています。

正門を入ってすぐ右に曲がった、図書館と音楽室の間の敷地に6年前建てられた中学棟では、1クラス35、37名/1学年5クラス、約550名の皆さんの後輩が学んでいます。最近、卒業生の教員と卒業生の保護者が学校で顔を合わせる奇妙な(?)場面にも数多く遭遇します!

懐かしきあの制服

2006年3月11日、第24回卒業式...この日を最後に、あの制服が、懐かしい制服へと変わることとなりました。

1982年4月5日、3期生女子183名がああ制服に身を包み入学してきました。設立準備委員の先生方の間で「ブレザーにするのか、セーラー服にするのかで熱く議論が交わされた(?!)」結果、紺色のブレザーにグレーのネクタイとスカートのあの制服が由来となりました。「あの頃はまあおしゃやかな制服なんかあった時代だったので、東武線ではかなり目立っていましたね。立教の制服に似ていたので、よく間違えられました(笑)。可愛いというよりは、上品でちょっとお金持ちっぽさという感じでした。今と比べると、笑えるくらいスカートが長かったですね。ネクタイも改造したりはしましたが、帰り道に外したりする人はいなかったですね。(3期生 桑島優紀)」

そして、月日が流れ、24期生がああ制服に身を包み卒業を迎えました。「私が在学中、某先生が私たちの学年を、最後の獨協埼玉生」とおっしゃったことがありました。聞くと、先生は制服やカリキュラムが変わり、獨協埼玉の良さが消えるので

はと心配されているようでした。3年間過ごして私が感じたこの学校の良さは、勉強するだけではなく、行事や部活を思いっきり楽しむことができる、教室で聞く授業だけではなく、様々なことが学ぶことができることだと思います。25年間獨協埼玉の顔だった制服は、もうせんげん台でも春日部でも新越谷でも見るのができません。ダンスの中でご隠居生活を送っています。淋しいけれど、時代の流れなら仕方ないかなあと思う今日この頃です。でも、制服が変わっても、カリキュラムが変わっても、獨協埼玉の良さは変わらないで欲しいです。某先生の最後の獨協埼玉生「の言葉が撤回されるのを祈っています。(24期生 中田達)」

懐かしい制服の出番はもうありませんが、新しい制服に身を包んだ在校生が、獨協埼玉の良き伝統を引き継いでいってほしいと願っています。





黒髪のドイツ人、茶髪の日本人



獨協の下はドイツの下。

獨協学園関係者なら一度は聞いたことのあるフレーズだと思ふ。しかし、今まで獨協埼玉はドイツの姉妹校と提携されていなかった。そして、自力でギムナジウム（ドイツの高校にあたるもの）に掛け合い留学するような生徒もいなかった。



われた思いだった。

3月。私は高校を卒業し、髪を染めた。茶髪の卒業生をドイツに連れて行ってくれた学校の寛大さに本当に感謝します。さて、デュッセルドルフ空港での再会を私は忘れないうらら。自分がドイツに来たという事実が頭で理解するよりも早く体を駆け抜けていった。ドイツでの生活は刺激的で、毎日が新しいことだらけだった。18歳で成人を迎える彼らは日本人と大きく違う。楽しそうにはしゃぐ彼らの中には「責任」の二文字がどっしりと構えていた。進路も早くから決めなくてはならない、自由に振り回されてはならない彼らは授業も放課後もすべてメリハリをもって楽しんでいるようだった。日本人に足りない物がドイツ人にはある。そしてドイツ人に足りない物が日本人にはある。「日本+ドイツ=2の国を作りたい」という磯先生の夢は自分がドイツに行つて初めてわかるものだった。

9月。我が家に戻ってきたハンナは日本

が大好きで髪を真っ黒に染めた女の子。膝の怪我もなんのその、タフなドイツ人そのものだった。彼女の話す日本語は私たちが家族をとてあたたかくしてくれた。ただ受け入れ期間中は体育祭の準備でも忙しかつた。「ハンナはうちよりもっと楽しく過ごせる家に行つた方が良かったのではないか？」と申し訳なく思った。すべてが自分のエゴのような気がした。しかし、体育祭が無事成功すると、純粋に彼女との日々を楽しめるようになった。日光や渋谷、浅草にレインボーブリッジ：ハンナと見る日本はどれも新鮮だった。だがいくら惜しんでも刻々と別れの時は近づいていく。私は帰国前目涙を浮かべる母の気持ちが正直分からなかった。しかし、当日やっと母の気持ちがあつた。ハンナはドイツに帰つてしまふのだ。急にこみ上げる思いに胸がいっぱいになり、泣きながら「ドイツ語も英語も出来ないし、何もしてあげられなかった。ごめんね。」という「椰子との日々はどつても楽しかった。椰子の家で良かった。」と言ってくれた。その一言に救

見ても感じた物は等身大の日本とドイツで、本やインターネットではわからない物だった。私たちは本当に些細ではあるけれど、日独の掛け橋になれたのではないだろうか。そしてこれからもっと強くゆるぎないものへと育てていきたいと思つている。最後に、我が家にあるハンナの物は今でも使わずにとつてある。ハンナはまた我が家に戻ってくるファミリーだから。そう思えるような出会いが出来て本当に良かった。私にとつて忘れられない獨協の思い出がまた一つ増えた。

(24期生 芳我椰子)

「部活動紹介」

第7回 なつかしきあの頃 バスケットボール部

「緑の床の バスケットボールコートで」

獨協埼玉高等学校における初めてのバスケットボール部は、加倉井先生を顧問として開校1年目に設立された。初年度は、経験者と初心者が半々くらいで10人にも満たない小さなクラブだったが、5人でできるスポーツであることが幸いだった。真新しい緑の床の体育館での練習は、心躍るものがあった。皆がシュート練習だけに精を出した。屋外練習の日にも、「今日は暑いから休みにしよう」と、キャプテンが常にリーダーシップを発揮した。それでも、不思議と大会で1回戦負けを経験することなく、時には100点以上も入れて試合に勝つたりした。初年度に目白校を招いて行ったバレーとバスケットの交流戦は、未だに語り継がれるほどの白熱した試合だった。きっと、1期生の選歴のときにも話題に上り、皆が目頭を熱くするだろう。



今、25年振りに初年度の卒業アルバムの写真を見ると、バスケットの練習では見かけた記憶のない顔がすまして写っていたりする。そんなことを誰も気にしない、どこのクラブ

も兄弟のような実に暖かな良い時代だった。

2年目になって正真正銘のバスケット経験者が増え、3年目には女子の入学とともに堀内先生も指導して下さるようになり、ようやく他人が見ても「バスケットボール」と理解できるクラブになった。

この以降のバスケットボール部は、設立当初の志を体育館の片隅にそつと追いやり、懸命に練習し続けて今日に至る。

最近のバスケット部は、男女の別なく週に2日の屋外練習、5キロ走、今はもうない砂の外コートでのフットワーク練習など、ハードなトレーニングを積んでいる。真夏には、体育館で練習すれば日焼けすることも無いのに、部員全員が真っ黒であった。平成17年の夏には、別世界のようにきれいな第二体育館も完成し、昔のようにバスケットボール部が緑の床の第一体育館を使うことはほとんど無くなった。あの独特の膝や腰に響く床の心地よさは、これからの新しい部員には体験できない貴重な思い出である。

バスケットボール部における活動は、私たちを身体的にも、精神的にも大いに成長させてくれた。人生の中ではほんの一時かもしれないが、そこには何事にも代え難い思い出や経験が凝縮されている。バスケットボールを通して得たものの真価は、将来の私たちの姿に反映されるだろう。これからの私たちに、是非、皆さんにしっかりと見ていただきたいと思う。

これからバスケット部に携わる人々が、設立の志を引き継いで少し懸命に練習し、「開拓・創造・親愛」を実践できる人物として社会に翔くことを祈念する。いつの日か、緑の床のバスケットボールコートで先生や旧友に会える時を心から楽しみにしている。最後に、これまでの部員全員が加倉井先生、堀内先生をはじめ多くの顧問の先生方大変お世話になったことを心から感謝したい。

(1期生片桐岳信・24期生須藤啓)





独W杯日本代表茂庭照幸選手(左)と

成瀬 まず始めに獨協埼玉を卒業したあとの略歴を教えてください。

塚越 獨協の独協学科に進んで、大学4年時にドイツへ1年留学しました。卒業後沖縄県宮古島の宮古新報という小さなローカル新聞の会社で、4年半ほど働いていました。

成瀬 敬語やめよっか! (笑) 確か宮古島に行く前に元担任と会ったと聞いたけど?

塚越 (笑) そうそう。出発直前に、高2の担任だった紀内先生と指しで飲んだ時に励ましてもらってとても嬉しかったね。宮古島は本当に最高だったんだけど20代だったから、「このままでいいの?一度は町で勝負しないと」と関東に戻ってきた感じだったんだ。

成瀬 それで今の職場、サッカーダイジェスト編集部にすることになったんだね。一緒にサッカーをやっていたやつがねえ。なんだか不思議な気分だよ。今は何をやっているの?

塚越 仕事は、編集記者になるよ。ちょうど2002年の日韓W杯前の募集に応募したんだけど、面接の3日前に宮古島に行っていた編集長と話が合っちゃって採用!今はJリーグ、高校サッカー、国際大会の取材、それに選手へインタビューをしたりしているよ。FC東京、アビスパ福岡を担当している。基本的に毎週末は取材だね。今後は北京五輪チームも担当する予定。次の日本代表候補の平山、カレンといった選手たちのいる世代で、彼らを高校の頃から見てきたから個人的にもこれからの活躍をとめて

期待しているよ。

成瀬 なんだかすごい名前がバンバン出てくるね。本当に記者なんだねえ。記者というのは実際のところどんな仕事をするの?

塚越 試合を取材する時は、だいたい開始の約1時間前に現場へ行っている。それでカメラマンとどんな写真を誌面で使いたいかなどを打ち合わせて、試合前の監督と立ち話などをしてたり。試合後は取材を自由にできるゾーンで選手をつかまえて話を聞くことになってる。

成瀬 これまでにインタビューした大物にはどんな人がいるの?

塚越 大物かどうか分からないけど、ドイツワールドカップのメンバーでは、三都主、加地、茂庭、あと土肥。加地は無口な感じだけど、サッカーに関する具体的な話題をあると、より詳しくつっこんだ話をしてくれる。三都主はいい人。ブラジル人っぽく気さくだった。あと、あまり有名ではない選手でも、恩師やライバルとの出会い、大ケガからの復活とか、いろんな人生があつて楽しい。Jリーグ誕生時から現役の三浦文丈は、経験に裏打ちされた含蓄のある話をしてくれて、とても影響を受けてきた。ジエコのインタビューにも一度加わったこともあるね。すごく優しい人という印象を受けたから、W杯では監督としての難しい心理戦とかで大変だったのかなと思った。そういうえばオシムが試合会場でわざわざ自分のためにドアを開けてずっと待っていてくれたことがあつたんだけど、名前にそんなことまでしてもらって、本当に申し訳なく思つたよ。なんてお礼を言っていたのか分かんなく、「アリガトウ」と言つたかな?今度は独語で話しかけてみたい!

成瀬 ジエコ、オシムにまで会っているんだ!サッカー選手以外ではどんな人がいるの?

塚越 入社3日後、宮古島で初めてインタビューしたのが、さだまさしさんだった。ダメ元で所属先に連絡を入れたらOKしてくれて、ものすごい緊張したけど、TVで見ていたイメージ通り、本当に気のいい方だった。そのインタビューが、今の仕事をす

る上でも原点になってるのは確か。他にもヤワラちゃん、亡くなられたオリックスの仰木監督などを取材したことがある。映画のロケに来ていた岩城滉一さんを自分の汚い車の助手席に乗せたこともあつた。事故つたらどうしよう! とかなり不安だった。

成瀬 へえ。なんだかすごくミスターな話ばかりになってしまったけど、実際のところはやっぱり大変な仕事なんだよね。

塚越 そうだねえ。よく華やかに思われるけど、仕事のメインは取材よりも常に締め切りに追われた編集作業。しかもこのW杯期間中(この対談は6月、まさにW杯真っ最中に実施!)は週2回刊で、編集部にもりつぱなしで、海外からの翻訳原稿をまとめる作業ばかりだよ。そんなこんなで、いつしか女性の記者が忙しさのあまりみんな辞めてしまったのが残念!! とはいえ、好きなことを仕事にできているので、とても充実している。サッカーを通じていろいろ世界を知ることができたり、試合を通じて時にはガツガツして、時には感動して...そんななかで選手やスタッフの移り行く微妙な心理を捉えて、伝えていきたいと思うよ。

成瀬 しっかりとプロの記者らしい言葉で締めくれたね! 獨協の同窓生がこんな素晴らしい仕事をしていることを私も嬉しくなっちゃうよ。これからは、塚越の記事を読むのを楽しみにしているから頑張ってね。W杯中の忙しいときに時間を割いて頂きありがとうございます。

塚越 こちらこそありがとうございます。

・教育実習を終えて・



今年も24名の卒業生が教育実習でお世話になりました。

久しぶりの母校の印象は、クラス編成や授業のカリキュラム、女子の制服など、私たちが学生の時とは異なる点はあるものの、生徒たちは穏やかで、素直な子が多く、獨協らしさに変わりはなく、嬉しく思いました。

最初は生徒の前で話すのも緊張していましたが、生徒たちが、積極的に活動してくれたので、HR、授業などもスムーズに行なうことができたように思います。たくさんさんの生徒と接することにより、私も学ぶことが多く、教師の責任の重さと同時にやりがいを感じ、教師への憧れが強くなりました。

実習中はいろいろな人に支えていただきましたが、何より子どもたちに励まされたように思います。また、先生方も私たちを温かく迎え入れてくださり、遅くまで、熱心にご指導していただき、充実した実習を行なうことができました。大好きな母校、獨協埼玉で実習できたことを深く感謝しております。

(21期生 吉野純美)

第8回 座談会

長年「売店のおばちゃん(失礼しました)」と生徒たちに慕われてきた鷹野さん・宮井さんがこの一学期で退職されることとなりました。売店から見てきた獨協埼玉の生徒たちの移り変わりなど、思い出を話していただきました。

司会：今日はお忙しいところお時間を作っていただき、ありがとうございます。

まず初めに、フルネームをお聞かせくださいますか？失礼な話なんですけど、我々はいつも、「売店のおばちゃん」としか呼んでいないもので。

鷹野：はい。私は、鷹野トク子です。高い低いではなくて、鳥の鷹なんです。

武田：へえ、ずっと高い低いの高だと思ってましたー

宮井：私は、宮井美大子です。お宮の宮です。司会：高校時代から、ずっと顔はあわせていましたけど、初めてフルネームをお伺いしました。

では、次の質問です。獨協も27年目に入りますが、売店として変わったところというものはありますか？

武田：いやー随分変わったよねえ。プリンとかヨーグルトとかあるのがびっくりだよ。

鷹野：今はほんとに商品が増えましたよね。ゼリー、ヨーグルト、プリン、カロリーメイト、ほんとに多いです。

宮井：お弁当もたくさん増えたり、パンも増えたり、プリンやヨーグルトも種類がたくさんありますからねえ。

武田：僕らの頃は、バックのジュースの自動販売機が1台あるだけでしたもんね。

売店には、お弁当を頼むところでしたもんね。成瀬：我々の時も自動販売機は少なかったですね。お弁当を日直が注文をとって、売店に頼みに行く感じでした。食堂にヤカンが置いてあって、麦茶が入ってました。

司会：へえ、そんなときがあったんですね。僕らの時には、ヤカンに麦茶はなかったですね。

鷹野：昔はね、そういう時代もあったわね。セブイレブンなんかもなかったし、それを考えると、生徒にとっては便利になりましたね。

司会：では、生徒は昔と今とではどのように変わってきたと思いますか？

鷹野：そうねえ、雰囲気としてはそんなに変わったとは思わないけどねえ。

昔から、おばちゃん、おばちゃんって言って仲良く接してくれていたし、いい生徒さんに会えたと思っていますよ。でも、最初は男子しかいなかったでしょ。女子が入ってくるようになって、少し雰囲気が変わったっていうのはありますかねえ。

宮井：そうねえ、でも昔の女子生徒は、スカートが長い子ばかりだったけどねえ。

最近の生徒はビックリするくらい短いもんね。見えちゃうんじゃないかってくらいね。ちょっと最近の女の子は派手かもしれないわねえ。

司会：なるほど。確かに女子が増えて、今では女子の方が多いくらいですもんね。男子校の時代とは変わりますよね。

鷹野：でも、本当にいい子達ばかりで、卒業してからも、わざわざ売店まで挨拶に来てくれたり文化祭で声をかけてくれたりね。

武田：そうそう、この前も卒業生が職員室に来た後に、当たり前のように「売店に行ってくる」って言ってましたよ。生徒の名前なんか覚えてるもんなんですか？

鷹野：そうねえ、体育着なんかで買いに来た生徒さんは、名前でも覚えてたりして覚える場合もあるんだけど、あとは名前まではわからないですけどね。顔はもちろんおぼえていますよ。

宮井：昔はお弁当を注文するときに名前をお弁当に書くから、渡すときに名前と顔を覚えられたりもしたんだけどね。

鷹野：そうそう、でも時々名前が本名じゃなかったりしてね。好きなミニージュシャンだったり



▲左から3人目 宮井さん。左から5人目 鷹野さん。

して、三年間ずっと本当に布袋君だと思っ

ていたら、違ったりしてね。

司会：そうですね。確かに昔はお弁当に名前を書いてましたもんね。

誰かこの子は印象に残っているなんて言うお話ありますか？

鷹野：たくさんあって何を話せばいいのか迷いますけど、一つあげるなら、プリンを1ケース買っていつてくれた生徒さんがいたりとかね(笑)。

宮井：確か野球部の子だったっけ。

鷹野：そうだったかなあ。みんなで早食いするんだとかなんかだね。

買ってくれたのはいいんだけど、ビックリしましたねえ。

司会：それは、すごいですね。では、最後になるんですけど、卒業生に向けて、何か一言ずついただけければと思うのですが。

鷹野：そうですね、何を話していいかわからないんですけど、本当に良い生徒さんに囲まれて楽しい思い出がたくさんありますね。

文化祭や同窓会ではぜひ、学校に足を運んで頂いて、懐かしい高校時代を思い出して見てくださ。高校生だった皆さんが社会人として活躍している様子を拝見できたらうれしいですね。

宮井：本当にそう思いますね。私たちも機会があれば、獨協に顔を出させていただきますので、再会できることを楽しみにしていますよ。

司会：ありがとうございます。今日は、本当にお忙しい中、時間を作っていただいたてありがとうございます。

先生は今…

朝日新聞社主催の「第9回 朝日俳句新人賞」において、新人賞準賞を受賞されました依田善尚先生にお話を伺いました。



高田 新人賞準賞受賞、おめでとうございます。受賞されての感想をお聞かせください。

依田 今まで認めてくれていた前衛的な方々だけではなく、保守的な方々からも認められたということが嬉しかったですね。それから、俳句にあらわれた教師としての姿を誉められたことも嬉しいですね。

高田 今回の受賞作は「チョーク箱」ですね。

依田 私の作品の特徴は人事句が多いということですが、自然から感じた思いだけではなく、学校や家庭での出来事が全体の3分の2を占めます。今回の「チョーク箱」は学校での出来事がモチーフになっています。

高田 出版された「教師の子」(富士見書房)にはどんな思いが込められていますか？

依田 自分の分身みたいなものですね。俳句に人間がよく出ているという感想のお手紙もいただいていたので、その意味でも自分が正直に表われている1冊になっています。

高田 いつ頃から俳句を詠まれているのですか？

依田 昔から韻文(短歌・俳句)が好きで、12年前からは結社(未来園)に属して、時行・句会を通して、本格的に俳句の世界に入っていましたね。

その前にも伊藤園の俳句大賞にも応募して、お茶をたくさんもらったこともあるんだけどね(笑)。

高田 最後に、俳句に対する思いを教えてください。

依田 「寄物陳思」といって、物に託して思いを表していくのが俳句です。17字という短い俳句に、自分を重ねていけたらと思います。

高田 また、喜びの報告をいただけることを楽しみにしています。今日はありがとうございました。

鳥雲に二十年目のチョーク箱
ぼろぼろのヘッセ読む子や夜の新樹
採点の基準揺れ出す寂かな

「チョーク箱」より

鷹野トク子・宮井美大子(梁商事)
武田信一(3期生)・成瀬博文(10期生)
高田晶子(10期生)・梨本佳代(19期生)
司会 櫻井広仁(13期生)

第27回 蛙鳴祭 9月23日(祝)・24日(日)

今年のテーマは **ザ☆ヒットパレード** です

このテーマは、1つ1つのクラスの出し物がヒットするくらい盛り上がり、それがパレードのように獨協埼玉を盛り上げようという意味から決定されました。今年もW杯があり、とても熱い年になりましたが、蛙鳴祭で、生徒も来場者の方々も、さらに熱くしていきたいと思えます。

第27回蛙鳴祭実行委員長 本澤杏奈

40歳になったら学校へ行こう! -3期生ホームカミングデー-のお知らせ
3期生(男子232名・女子181名)の皆さん、人生の節目となる40歳に母校を訪ねてみませんか?是非、自分の目とココロで確かめてみてください。学校でお待ちしています!

9月23日(祝)
★14時～ 獨協埼玉高校で第2体育館見学ツアーを含めたミーティングを行います。
★17時～ フラールガーデン春日部(春日部駅西口徒歩10分)にて、懇親会を行います。
*もちろん、お子さんを連れての参加もOKです。
連絡先 dkoushien@yahoo.co.jp (武田信一)
実行委員 永島健次【卒業時7組】・桑島(秋山)優紀【卒業時7組】・武田信一【卒業時8組】

*詳細は、学校HPでご確認ください。

*ホームカミングデーは獨協埼玉高校および同窓会の承認を得ており、継続事業として毎年開催しています。皆様のご協力ご参加を心よりお願いいたします。

入試ミニ説明会 *いずれも小ホールにて
*願書を無料で配布しております。
中学 9月23日(土) 13:00～14:00
高校 9月24日(日) 10:00～11:30

もちろん、同窓会も参加します!
獨協埼玉の27年の歴史や、先生方の若かりし頃(?)や現在が分かる“今昔物語”などを展示中!!
同窓生の皆様もご家族づれでお越し下さい。

体育祭 10月7日(土)
10:00～15:00

今年もお揃いのカラーTシャツに身を包み、汗と涙を流す体育祭の季節がやってきます。自由にご覧いただくことができますので、お時間がありましたら、是非お越しください。

入試

募集 中学：男女共学4クラス160名
高校：男女共学4クラス160名

*詳しくは...
学校HPを
ご覧ください。

説明会 中学のみ 9月10日(日)
中学・高校 10月15日(日)・11月12日(日)
○場所：本校体育館
○時間：中学 10:00～ 高校 14:00～

片桐 岳信(1)	榎原 浩美(18)
杉崎 良樹(1)	梨本 佳世(19)
増田 浩一(2)	村上 恵理(19)
小野 岳二(2)	有光 眞維(20)
市橋 秀紀(2)	大山みどり(20)
水谷 功(3)	五十嵐 玄(21)
吉本 博之(3)	丸川 玲子(21)
武田 信一(3)	加藤 友紀(22)
桑島 優紀(3)	高崎 菜月(22)
奥泉 裕子(4)	村上まどか(22)
橋本 行正(4)	佐藤 唯(22)
瀬戸てるみ(8)	安保佳代子(23)
川島 信也(9)	岡部沙友里(23)
成瀬 博文(10)	森 歩美(23)
金久保佳代(12)	須藤 啓(24)
田中 弓子(15)	五味 潤(24)
田ノ下紀子(15)	芳我 郁子(24)
永井 穂(16)	岡野 亮太(24)
深瀬 和之(16)	

理事	会長	副会長	会計	会計監査	事務局	事務局局長	事務局総務	幹事会進行	幹事会記録	H.P.委員
玉山 栄一(1)	永島 健次(3)	森田 淳(5)	櫻井 広仁(13)	竹内 友洋(13)	友野 行晴(1)	小平 茂(5)	高田 品子(10)	井上佐友子(8)	伊勢 陽子(10)	仲田 英起(17)
				酒井 直樹(7)						岡 淳一郎(18)
										坂本 晋美(18)
										山口 麻里(20)

同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業期)

同窓会名簿の更新について

同窓会名簿の更新につきましては、現在、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

同窓会へのお願い

①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願いたします。
②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等も郵送いたします。ご協力よろしくお願いたします。
③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。
④同窓会は、同窓会活動を進行する上で取得させていただいた各種の個人情報適切に保護し、会報、同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付、学校で保有する卒業生データベースの構築のための情報提供に、これらの情報を利用します。なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出ください。
⑤最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報聞き出すような行為があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは切っておりませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣意を「理解の上」ご協力よろしくお願いたします。
※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。

獨協埼玉高校
同窓会連絡先

〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316 ☎048-977-5441 ☎048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/